

平成28年7月15日
千葉県農林総合研究センター長

ナスコナカイガラムシの発生について（ナス）

1 病害虫名：ナスコナカイガラムシ *Phenacoccus solani* Ferris

2 作物名：ナス

3 発生経過

平成28年5月下旬、県北東部の施設栽培ナスで、葉や果実にコナカイガラムシ類の発生がみられた。本虫を採集し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未確認のナスコナカイガラムシであることが判明した。

なお、現場のナスにおける被害程度は軽微であった。

4 分布と加害作物

海外では、北南アメリカ大陸のほか、ハワイ、ミクロネシア、南アフリカなどに分布し、寄生植物は雑草を含むナス科、キク科、マメ科、アブラナ科など30科に及ぶとされている。

国内では平成15年に高知県で初めてピーマン、シシトウ、ナスで発生が報告された。

その後、長崎県、愛知県、茨城県などで、ナス科、キク科、ウリ科、アブラナ科作物への寄生が確認され、これまでに12府県で特殊報が発出されている。

5 本種の特徴

(1) 被害の特徴

葉や茎に寄生し、発生が多くなると果実にも寄生する（図1）。成幼虫の吸汁による葉や果実の生育阻害や、排泄物によるすす状の汚れが発生し、品質が低下する。

(2) 形態

雌成虫の体長は3～5mmで、長楕円形。体色は灰色で、体表は白色粉状のロウ物質で覆われている。体周縁のロウ物質の突起は18対あるが、短く目立たない（図2）。

(3) 生態

本種は単為生殖を行い、雄は見つかっていない。卵胎生のため雌成虫は卵のうを形成せず、直接産仔する。1雌の産仔数は約200で、幼虫は1～3齢幼虫を経て成虫となる。

1年に数世代を繰り返す、年間を通じて幼虫の発生が見られる。

6 防除対策

現在、本種に対する登録農薬はないので、以下の物理的・耕種的防除に努める。

(1) ほ場内をよく観察して早期発見に努め、見つけ次第捕殺するか、発生部位を除去する。

- (2) 本種は寄生範囲が広く、観葉植物や雑草などにも寄生する可能性があるため、それら植物の持ち込みを避け、施設内外の除草を徹底する。

7 その他

本県も含め、既発生県では、無農薬栽培や天敵を導入した減農薬栽培での確認が多く、野菜等の減農薬栽培では、特に注意が必要である。



図1 ナス果実に寄生したナスコナカイガラムシ



図2 ナスコナカイガラムシの成虫と幼虫

病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 808

TEL 043(291)6077

FAX 043(226)9107

E-mail : cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp